

みどりの杜俳句会

雨脚に参道けむり魂迎へ

佐山けさ子

強弱の雨風見えて迎へ盆

高橋 きみ

秋の日や我心待ち静まらず

安田 久子

窓近く雀の鳴くや夏の朝

鈴木 啓子

せせらぎや萱生ふところ通し鴨

荒川句似啓

雨上がりひときは強く蟬の鳴く

西 ツル

植木場の手入れの済みて盆の来る

吉田 愛子

迎へ盆坂の途中に待ちてをり

河西カナメ

帰り道町空うすく虹かかる

田村 好子

山空のやうやく晴れて蟬の声

飯野 トヨ

開墾の畑に初採り茄子胡瓜

馬場 芳

杜の家一步入るやいと涼し

飯野はつ志

送り盆すまんじゆう作り土産とす

梅沢きくえ

梅雨入りや濯ぎ物干す家の中

山崎 才子

夜の蟬灯りに寄りて飛び回る

関口 真吾

にが瓜や細ひもつたひ三階へ

小宮 勉

祖父母より早やくり茸の届きけり

谷内 真里

蟬むくろ転げ山家に日の暮るる

岩崎 真人

村道に沿いて稲穂の垂れにけり

金子 圭輔

夏風邪の子に手作りや補水液

大竹 祐也

木にからみ葛の花房香りあり

関口 侑子

鍾乳洞出口ま近かや蟬の声

野口利江子

虫喰ひの葉かげに香り葛の花

土屋 厚子

廃屋に高砂百合の真白かな

初雁 功子

鈴虫籠吊し庭の灯消して置く

山田 美子

白石短歌会

奥山に紅葉踏み分け啼く鹿の

こななに変った世を嘆き住む

渡邊美枝子

檀山の斜面より取り来し竜脳菊

十年過ぎてても今年も芽を出す

坂本 美江

盆過ぎて虫の声聞く早朝に

艶めく茄子を友より頂く

白石 礼子

「今年もねへちま化粧水つくくれたの」

美しく逝きし母の墓前に

渡邊阿里子



人権シリーズ

「人権や差別について考える」

この題で一言書いて欲しいと頼まれて、真つ先に辞書を引いてみた。「人権」とは、人民の権利、「差別」とは、優劣などの違いと書いてある。そこで自分自身について考えてみたが、70年近く生きてきた中で、身に降りかかったことのないものであった。それだけ、のんきにのんびりと生きられる環境に育ち、生かされてきたのだろう。

小学校の頃は黙っていても「オメエ定一ちゃん家の子かあ、似ている所があらいい」とか「ムメさん(母)は働き者だいな」とかよく言われたものである。中学の時は先生に「和一の弟か、兄ちゃんとは違うなあ。」などと平気で比べられたりもした。でも、それだけ周りが自分や家族のことを知っている。大人になって振り返ると、それは子どもにとつてすごい安心感なんだと思う。知らず知らずのうちに、みんなで子どもたちを育ててきたのだ。東秩父村だからこそ成し得た環境であり、今だからこそ、すばらしいことなんだと思える。

その逆に、無視や無関心こそ差別であり「人権」を奪うことと考える。今、心に傷を負っている人は、ここにおいていいよ、あなたは大切な人だからと言ってもらえないだけで救われることだろう。押しつけではなく、長い人生、待つゆとりも双方に必要であると思う。これからも意識せずに自然に「差別」のない環境をみんなで育みたいものである。

来年は「東京オリンピック・パラリンピック」の年。障がいのある人もない人も、今持っている自分の力を全て発揮して、頑張つて欲しいと心より願っている。ガンバレ日本!

行政区長会長 高野 峯行